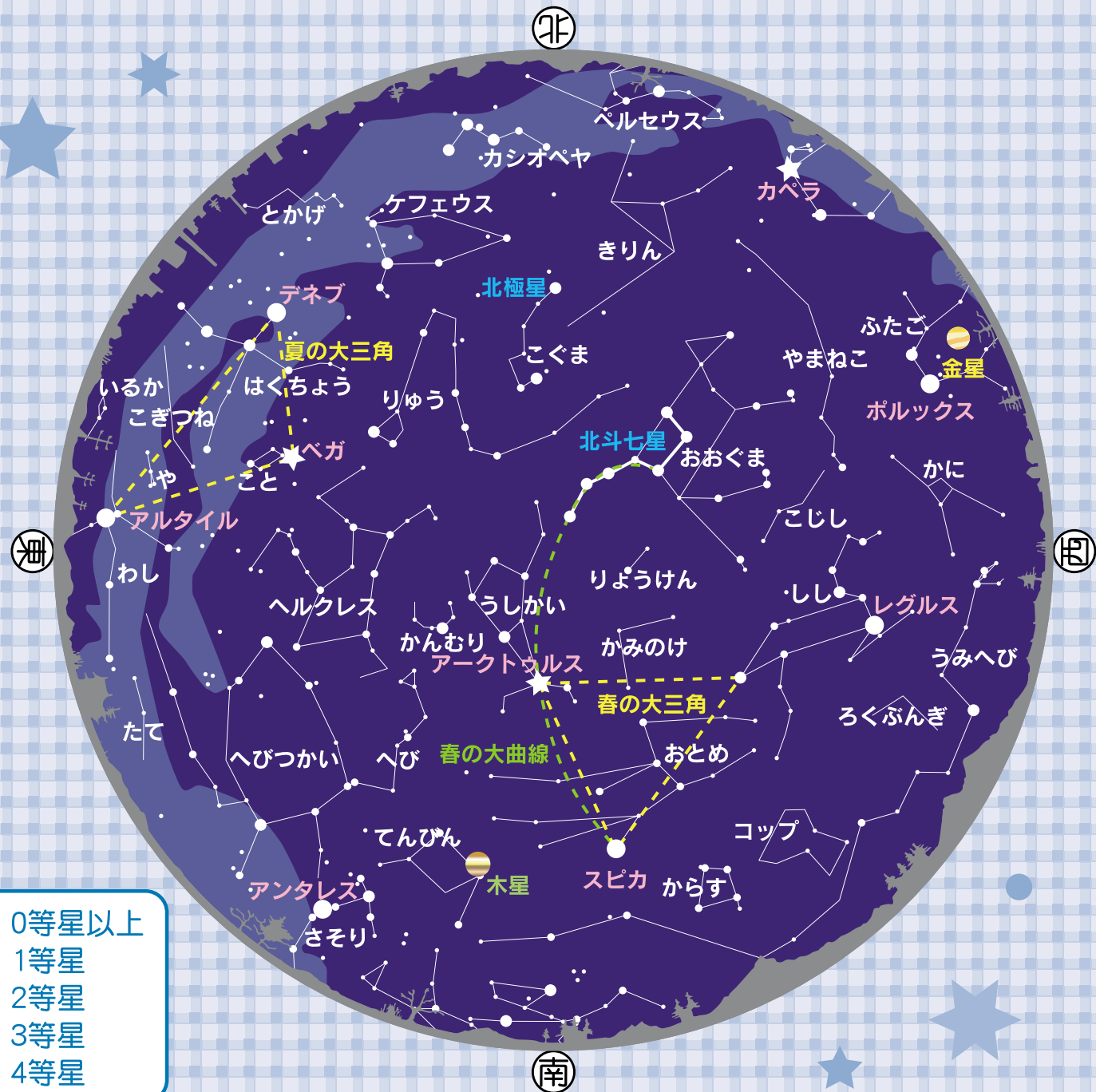


2018年
5・6月号
VOL.77

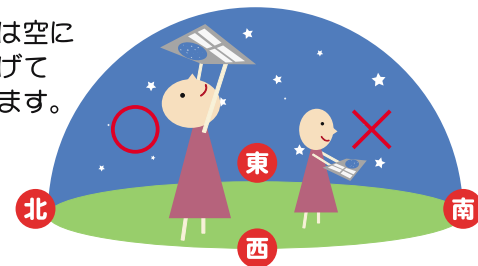
菜の花畑の上を通過する国際宇宙ステーション(ISS)です。西の地平線からゆっくり現れ、南の空高くに動いていきました。背景にはしし座など春の星たちも輝いています。



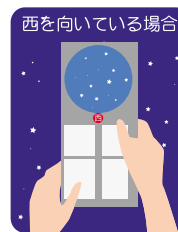
春から夏へ移っていく緑が美しいこの時季は、北斗七星からアークトゥルス、スピカへとつながる「春の大曲線」が星座をたどる目印になります。アークトゥルスと、スピカ、しし座の尻尾の星デネボラを繋ぐと「春の大三角」。カーブや三角形を目印に春の星空散歩を楽しんでみましょう。少し夜更かしをすると東の空には「夏の大三角」も顔を出し始めます。

星図の使い方

①星図は空にかかげて使います。



②空にかかげたら、自分の向いている方向と星図の方向とを合わせて星を探しましょう。



星図のように見える時刻

5/1 23時ごろ 6/1 21時ごろ

※惑星の位置は変化するため、6/1の位置を示しています。

月のかたち

○満月 5/29、6/28 ●下弦 5/8、6/7
●新月 5/15、6/14 ●上弦 5/22、6/20



今月のテーマ 木星



木星は今年の春の星空の主演ともいえる星です。太陽系の惑星の中でも一番大きい木星は、直径が地球の11倍もあります。

大部分がガスでできており、特徴的なしま模様を作っています。目玉のように見える模様は大赤斑といい、巨大な台風のようなものだと考えられています。木星の英語名ジュピター(Jupiter)は天空の神ユピテルが語源となっています。



地球11個分!!

今年の春の夜空で見える一番明るい星! 南の空を探そう!

せいぜいの
おはなし

うしかい座のおはなし

「うしかい座」には、様々な言い伝えがあります。一説には巨人アトラスが、オリンポスの神々と戦って敗れたため、最高神ゼウスから罰として「天空を肩にのせて支える役」を任されたと言われています。また、すぐ隣に2匹の猟犬を連れて、おおぐま座の後を追っているとも言われています。

<みつけかた>

まずはオレンジ色に輝くアークトゥルスが目印になります。そこから幅の広いネクタイのような形の星並びを探しましょう。うしかい座のアークトゥルスと、おとめ座のスピカはそれぞれ1等星で、仲良く夜空に並んでいる様子から、「春の夫婦星」とも呼ばれています。



5月…21時ごろ 南東の空
6月…21時ごろ 南の空